

「IoT導入阻む 老朽パソコン」

あらゆるモノがネットにつながる「IoT」の波に国内の工場が乗り遅れている。原因の一つはサポートの切れた「老害パソコン」が数十万台規模で稼働していること。生産設備と密接に絡み、更新すると予期せぬ停止を引き起こすリスクがある。だが放置したままではサイバー攻撃の標的になりかねず、対策が急務だ。

千葉県松戸市のパソコン修理専門店「ピーシーエクスパート」には、全国各地から旧型パソコンの修理依頼が押し寄せ、毎月の引き合いは100件以上にのぼる。店内には「ウィンドウズ95」など旧式の基本ソフト(OS)で稼働するパソコンがずらりと並び、「大手でも」「延命」記者が訪れた日に修理していたのは高畑大の「製鋼用クレーン端末」だ。液晶ディスプレイが

老害パソコンに4つのリスク

IoT非対応
搭載するOSが古すぎて、制御ソフトが使えない

サイバー攻撃
セキュリティの欠陥が修正されない



生産設備停止
パソコンを更新すると、予期せぬ停止の原因に

故障リスク
機器が故障しても修理部品が入手しづらい

サポート切れ 工場に数十万台 予期せぬ生産停止 懸念

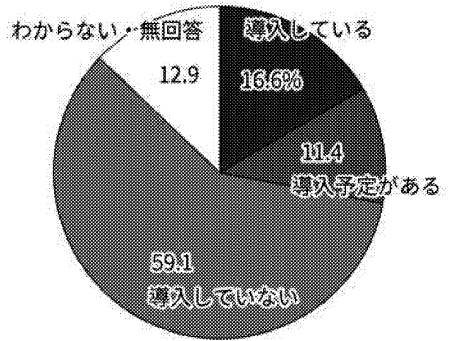
1月に終了するのを控え、更新需要が高まっているためだ。電子情報技術産業協会(JEITA)によると、19年4～6月のパソコンの国内出荷台数は217万台と、前年同期比で36%増えた。だがピーシーエクスパートの活況は、「7」より古いOSを搭載したパソコンが延命措置を受けている

ながら稼働し続けている。実態を浮き彫りにする。正確な統計はないが、サポートが終了した旧式のパソコンは国内の工場だけで数十万台を優に上回るとみられる。

1980年代以降にパソコンが普及し、多くの工場が生産設備の制御を担うようになった。ただし、パソコンの耐用年数が4～5年であるのに対し、生産設備は数十年にわたって使い続けることが多い。日本機械工業連合会(JMF)が

6月に公表した生産設備保有期間実態調査によれば、導入から10年以上が経過した設備が62.4%を占め、30年以上も19.1%ある。

製造業のIoTやAIなどの導入は2割未満



(出所)総務省の「平成30年通信利用動向調査」

刷新費用足かせ

一般的に工場は、いったん稼働させたらシステム構成を維持し、変更を避ける傾向がある。設備の安定稼働を重視するたためだ。うかつに制御用のパソコンだけを更新し、制御用ソフトが動作しないなどのトラブルで設備停止を引き起こせば膨大な経営損失を招く。

生産設備とパソコンを一緒に刷新するには数千万円規模の投資が必要となり、決断しにくい。その点、パソコンの修理のみなら数十万円が済む。こうして寿命が尽きても引退しない「老害パソコン」が増えていく。短期的には、だましまし使い続けるのが合理的だろう。だが先送りを続けてきたことで、老害パソコンは様々な問題の温床となっている。

術研究所チーフは「安易にインターネットに接続するのは危険」と話す。17年に猛威を振るった身代金要求ウイルスの「ワナクライ」はここに付け込んだ。欠陥を修正せずに使い続けていたパソコンに感染し、ホンダなどの工場を一時、操業停止に追い込んだ。

最新の調査からもIoT導入が停滞する様子が見える。総務省の「平成30年通信利用動向調査」によると、IoTと人工知能(AI)の両方またはいずれかを導入済みの製造業は16.6%にとどまっている。

ここに商機を見いだしたのがKDDI子会社のソラコム(東京・世田谷)だ。専用通信回線を使い、社内ネットワークから切り離れた環境でIoTを導入できるサービスを提供する。製造業以外も含むが、契約数は6月に100万を突破した。

ただ独立した環境でも万全とはいえない。保守作業などで外部からUSBメモリなどを持ち込んだ際に、ウイルスに感染する恐れがある。老害パソコンに早く別れを告げることが、最も確実な対策だ。

財務・販売管理も老朽化

経済損失12兆円の試算

古いコンピュータをだましまし使い続けることがビジネスの足を引っ張る状況は、工場のパソコンに限らない。財務や販売管理といった企業の基幹業務のITシステムも、老朽化が深刻な課

題となっている。日本情報システム・ユナイテッド協会(JUASA)の2017年の調査では、8割の企業が老朽化した基幹業務システムを運用しており、7割超はデジタル化の妨げになっ

ていると回答した。改修を重ねてシステムが複雑化しており、人工知能(AI)などの最新技術を導入すると不具合が発生しかねないという。老朽化した基幹業務システムは、企業のIT予

算も食いつぶす。同じJUASAの調査では、企業はIT予算の8割を既存システムに割いていた。経済産業省は企業が老朽化した基幹業務システムを放置していると、25年に最大で約12兆円の経済損失が発生すると試算し、「2025年の崖」と名付けた。システムの近代化は喫緊の課題だ。(島津忠承)